

農水省は漁民の声を聴け！

アサリが年を越せずに死ぬ

石にかじりついてでも海を再生させる！

長崎県諫早市小長井町の漁業者(五五歳)によれば、アサリの水揚げは、干拓事業着工後4年後位に前年の半分に落ち込み、その翌年はさらに半分になった。潮受堤防締め切り後は更にひどくなり、年を越えてアサリが成長することがなくなつた。もつとも、短期開門調査の翌年はよく取れたので、そのときは年を越えて成長することができたアサリもいたとのことであった。この漁業者は、石にかじりついてでも海を再生させると決意を語った。

出稼ぎしないと生活でき

きない

小長井町の漁業者は、兄と一緒に夏場は河川工事の出稼ぎ、それ以外の時期は息子と一緒に下水工事の仕事をしていると語

った。また別の漁民は、アサリだけでは食べていけないので瀬戸内海でタイラギの出稼ぎをしている。他にも、陸にあがって土方の仕事をしている、漁業者のプライドを捨てて玉ねぎやミカンの収穫のアルバイトで日当を稼いでいると語り、多くの漁業者が漁業だけでは生活できない実態が明らかとなった。

船を売り借金返済

小長井町の漁業者は、タイラギが取れなくなり安定資金の返済ができなくなったため漁船を売却して借金返済にあてたと語った。

漁に出るだけ赤字

佐賀県太良町大浦の五三歳の漁業者は、漁に出るだけ、赤字が出るのがわかっている。今年は一月初と三月に一回ずつ漁に出ただけですと語った。

みんな首を吊るしかない！

明日の見通しも立たない

大浦の七五歳の漁業者は、一緒に漁業を営む息子が瀬戸内海でタイラギ漁の出稼ぎや新潟の港湾工事に行つて、日銭を稼がなければならぬ現状を語り、このままでは、大浦の漁師は、みんな首をつるしかありません。毎日、食べるのに必死です。明日の見通しも立ちませんと語った。

馴れぬ工事で事故死

大浦の漁業者は、タイラギ、クチゾコ、シバエビ、アサリが取れなくなっている現状を訴え、息子に漁業を継がせたいと思つているが、現在の状況では、先行き不安で継がせることができない。弟が漁業で生活できず港湾工事の出稼ぎをしていたが、馴れない作業のため、事故でなくなったと悔しさを語った。

老母の年金頼り

小長井町の五二歳の漁業者は、昨年八月にアサリが全滅したことで収入の途が途絶え、職安に行つても年齢面で仕事がなく、なんと一〇月に一ヶ月間、組合の海底清掃の仕事をもらう事ができたが、今は、母親の年金に頼るしかない生活だと悔しそうに語った。

農水省は詐欺！

小長井町の六二歳の漁業者は、漁業補償するのなら「何年か後には全滅ですよ」と最初から言っておくべきだと訴え農水省の詐欺と語った。

